

させていただいた中で、決めることだろうと。なぜ、我々、それが出来るかという、全部個室で、全部同じ大きさですから。ここに重症個室って書いておりますけども、別にここではなくて良いわけです。今回、全部同じ大きさにしていますので、この病棟の病室の場所に限らず、重症個室も持ってくる事が出来ますし、レイアウトをすぐ変える事が出来る。これは、非常に細かいポイントで我々からの一方通行だけの提案で決めるべきことではないという風に思っていますので、これはそういった自由度を確保しているというのが、非常に今回の場合は重要なという風に思っています。

稲坂委員

今の川淵委員の質問に関連して、地盤について、今、提案頂いている計画が出来ないということが起こった場合、杭を打つことや改めて調査することなど色々必要となります。その場合、事業者がカバーし、工事費の総額は同じで、しっかりしたものを新しい時代に対応して造るという努力をしていただけないのか、つまり、事業者の責任として考えますという約束をしていただいた方が良くと思います。

提案番号1番

その姿勢は非常に重要なことだと思いますので、今回、条件というのは、上限の金額が決まっているとすれば、新たに出てきた新しい条件、ちょっと厳しいという条件が出たときに、我々の方は設計と施工のプロとして、このところをこういう風にすれば、グレード、それから、機能を落とさずに出来る。これをVE、バリューエンジニアリングと言いますが、VEをして、それで、その分のお金を何とか捻り出すということが出来る可能性は非常に高いと思いますし、もちろん、それはそういう姿勢で取り組むことをお約束します。ただ、例えば、杭が要らないように今、データとしていただいている状況で、これがこんなことはないと思いますが、杭の地盤が、60、70mぐらい入るといったような全く違うような条件の場合、それはご相談させていただくかもしれません。ただ、我々としては、金額に上限があるということも分かっておりますし、我々は技術屋としてそういった提案をして、その中で、この金額の中で実現すると、グレード落とさずに実現するということが使命だと思っていますので、こんなデータが出たので、お金をくださいということは絶対に言いません。それで宜しいでしょうか。つまり、今、どういう地盤の状況、予測の中でしか話してないので、何ともわからないというところでございます。

谷委員

私の方から、4点質問させていただきます。

ので、すぐ故障してしまうということが起こります。今回、考えていますのは業務用のもの、長時間運転を想定した機械で、フィルター等もしっかりとしたものが入られるものというものを想定しております。

徳田委員長 各部門に渡り細かいご質問がなされ、今後、詰めていっていただけるということですが、出来ること、出来ないこと、検討すること、色々ありますが、検討という言葉は無しということで、出来るか出来ないかということで、今、出来ますとお答えいただいたことは絶対に守っていただくものと考えております。それから、委員長として、また、発注者側の委員として、最後に2点だけお願いします。

一つは地元貢献度につきましては、適正な経費を読み込んでいただき、「結果的に予定額までいかない」ということにはならないようお願いいたします。

もう一つは、病室の仕上の一部で木仕様というご提示がございました。これについても画一的にならないよう加賀、小松、この辺は地元産材の木材もございます。これらを色々な工夫で、地元の大工もいますので、ぜひ活用していただきたいというこの2点のお答えをお願いして、最後とさせていただきます。

提案番号1番 今、検討は出来るという風に答えたということで考えていただいて結構です。それから、最後の2点につきましては、発表でもお話しさせていただきましたが、承知いたしました。

徳田委員長 有難うございました。まだまだご質問をさせていただきたいのですが、約束は60分、それを超過してございますので有難うございます。

提案番号1番 どうも有難うございました。

事務局 それでは時間になりましたので、提案番号1番の説明を終了したいと思います。発表者の方々有難うございました。係員の誘導に従い、ご退場を願います。

提案番号4番 プレゼンテーション

提案番号4番 ヒアリング

徳田委員長 只今の説明につきまして、委員各位からご質問をお願いします。